



## 前回5.6%上回る4万3千人が挑戦

=平成26年度第2回日本語検定=



日本語の総合的な能力を測る「日本語検定」（略称・語検）の平成26年度第2回（通算第16回）検定が、11月7日（金）と8日（土）に行われました。国内は47都道府県94カ所の一般会場と864カ所の準会場、海外は韓国（ソウル）、台湾（台北、高雄）、ドイツ（フランクフルト）、アイルランド（ダブリン）の4カ国（準会場も合わせ）で行われ、前回は5.6%、2200人上回る合計4万2766人が認定取得に挑戦しました。

「語検」は、敬語や文法、語彙（ごい）、表記など6つの領域にわたり、日本語を正しく使うために必要な能力を測るものです。1級から7級まで、社会人から小学生まで幅広い年齢層を対象としています。検定結果は、12月上旬に語検ホームページで合否速報が発表され、同月中には合否通知が発送されます。

今回の受検者数は、1級（社会人）993人、2級（大学卒業程度）5383人、3級（高校卒業程度）1万3598人、4級（中学校卒業程度）1万328人、5級（小学校卒業程度）7254人、6級（小学校4年修了程度）3719人、7級（小学校2年修了程度）1491人で、前回に比べ2級が5割、5級が3割、1級が2割いずれも増えたのが特徴です。このうち2級は大学生の受検者数が増えており、就職活動などを勘案して認定取得への意欲が高まっているものと見られます。

最年長者は宮城県の98歳の女性、最年少者は大阪府の4歳の女の子でした。



### ◆ 午前と午後で991人が受検 = 東京会場

東京23区の一般会場となった千代田区紀尾井町の上智大学では、社会人を中心に991人が1級から7級の問題に取り組みました。

今にも雨粒が落ちてきそうな肌寒い曇り空のもと、厚手の上着を羽織った受検者が目立ち、大学の正門をくぐるとキャンパス中央の木立を抜けて受検会場に向かっていました。受検会場となった校舎のロビーや教室では問題集に目を通す姿があちらこちらで見られ、開始15分前には、監督者の注意事項の説明に耳を傾けていました。

100人ほどが入る大きな教室から30人ほどの小さな教室まで、級ごとに分けられた教室に入り、午前と午後の2回に分かれて受検しました。



次ページへ続く >>>

## ◆ キャリアアップや就活に期待

建設関係のメーカーに勤める墨田区の女性（25歳）は、先輩に誘われての初めての受検（2級）にやや緊張した表情をみせながらも「資格を持っていた方がいいので」とキャリアアップに期待を寄せていました。

テレビの深夜番組で芸能人が日本語検定に挑戦していると知って「面白そう」と受検を決めた豊島区の男性（23歳、大学院生）は「就職の面接で話のネタになれば」と厳しい就職戦線を見据えて2級の問題集を読み返していました。

勤務先で日本語検定の講座を受けているという足立区の女性（26歳）は「日本語の難しさを実感しています」と語り、2級合格を目指し初めての受検に表情を引き締めていました。

## ◆ 私立高校受験で有利に

検定開始の11時を過ぎるとロビーには椅子に腰掛けて検定終了を待つ人の姿がありました。杉並区の女性（40歳、主婦）は4級受検の中学2年生の息子の付き添いで来場。息子が受験を目指している都内の私立高校に提出する内申書で、日本語検定の認定を持っていると加点（点数が上乘せ）されると知って受検させることを決意。問題集を購入して勉強させてきたものの「出題範囲が（敬語や文法、語彙など）幅広いので、合格できるかどうか心配です」と静まり返った教室で問題に取り組む息子の健闘を祈っていました。

（時事通信社編集委員 升谷 昇）

## 平成 27 年度 検定のご案内

**平成27年度 日本語検定  
実施予定**

文部科学省後援事業

# 日本語検定

| 第1回 (通算第17回)             | 第2回 (通算第18回)              |
|--------------------------|---------------------------|
| [一般会場]<br>6/13(土)        | [一般会場]<br>11/7(土)         |
| [準会場]<br>6/12(金)・13(土)   | [準会場]<br>11/6(金)・7(土)     |
| [申込期間]<br>3/1(日)～5/15(金) | [申込期間]<br>8/1(土)～10/19(金) |

